

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1275200051		
法人名	有限会社 エステイケア		
事業所名	グループホーム ふれ愛		
所在地	千葉県旭市萬力318番地		
自己評価作成日	令和2年1月5日	評価結果市町村受理日	令和2年4月24日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所
所在地	千葉県千葉市稲毛区園生1107-7
訪問調査日	令和2年2月10日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

運営方針である「ゆっくり一緒に楽しく」をモットーとして、認知症状のある方が楽しく日常生活を送れるように努めています。
お客様が家庭的な環境のもとで、幸せを感じられるサービスに取り組んでいるところです。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

地域との関係性を大切にしており、運営推進会議には地域住民も参加している。また、地域のボランティアがホームの菜園づくりや、除草作業を継続しておこなっており、利用者も一緒に野菜の収穫をしている。「ゆっくり一緒に楽しく」を理念としており、職員は理念の実践に努めている。利用者が一日の生活にリズムを持たせて、楽しく過ごすことが出来るように「一日の過ごし方」というスケジュールをつくり支援している。これにより、重度化防止、自立支援にもつなげている。食事はすべて手作りで、「温かいものは温かいうちに」を合言葉に提供しており、食事が楽しめるような支援に心がけている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	設立当初に、創り上げた理念を、ユニット毎に掲示し、職員は、理念の内容を確認しつつ、支援にあたっている。	理念をユニット毎に掲示している。「ゆっくり一緒に楽しく」の理念方針を職員間で共有し、利用者一人ひとりの支援に実践できるように努めている。新任研修でも理念研修をおこなっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コンビニまでの買い物、散歩など外出を通し、近隣の方と接する機会がある。毎年地域の祭りにも参加、また、初めてRUN伴2019参加する。	運営推進会議には近隣住民が参加しており、情報ももらっている。お祭りや地域の活動に参加して地域との関わりを深めており、ボランティアで菜園作りや除草作業をしてくれる人もいます。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	入居者一人ひとりのペースを大切に支援を」している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に一回運営推進会議を開催しており、ホームの状況、質疑応答など意見を取り入れて、議事録も職員とも共有し、サービスの向上に努めている。	2か月に1回、利用者家族、地域住民、民生委員、高齢者福祉課、地域包括支援センターの参加で開催し、ホームの現状報告、ヒヤリハット報告などを共有している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	月に一回は、市の担当課に現状報告をしている。また、市や、地域統括支援センターには、助言を求めたり、相談をすることもあり、連絡は密にとっている。	運営推進会議に高齢者福祉課の職員が参加しており、現状を報告、相談をして助言を得ている。災害時対策の情報収集や、避難場所、備蓄についても相談をしている。また、市が主催する高齢者支援連絡会に参加し、災害時対応の研修を受けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は原則として行わない。職員は身体拘束について、研修等で学び、拘束をしないケアに取り込んでいる。	身体拘束等適正化のための指針が作られており、研修で職員に周知している。身体拘束適正化委員会を3か月に1回開催して具体的な事例について検討している。日常の業務でも職員間で注意し合える環境にある。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員会議等で虐待について周知徹底している。少しの傷なども見過ごすことなく、注意を払っている。		

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度等については、職員研修を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約時に、契約書、重要事項説明書にそって、説明、同意納得している。また、改定後は、その都度説明し、理解、納得を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約時に苦情窓口の担当者を伝えている。面会時や、イベント等の参加の際に、意見や要望等を伺っている。また、玄関に意見箱を設置している。	運営推進会議で出された意見は反映に努めている。利用者家族の来訪時は、職員から声をかけ現状を伝えて、意見を聞いている。家族会を開催しており、家族の意見を反映して、一日の中に運動を取り入れるなどしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議などで、職員の意見や提案が言いやすい雰囲気作りを行っている。管理者は、会議以外でも意見を受け入れるようにし、反映している。	会議では職員に発言の機会をつくり、意見を聞くようにしている。管理者は、会議以外でも意見などがあれば聞いており、反映に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の意見に耳を傾け、実践につなげることで、やりがいをもってもらえるようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の希望により、資格の取得や、研修に参加しやすいように勤務体制を組んでいる。また、他の職員のレベルアップにもつながるよう、研修報告をしてもらっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	本年度のグループホーム連絡会はふれ愛で行われた。また住まい部会として特老や老健とも交流あり。高齢者支援連絡会や他の施設の運営推進会議に参加している		

【評価機関】

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	安心して頂けるように本人の希望等を十分聞き対応に努めている。職員は「ゆっくり一緒に楽しく」過ごせるように心がけている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス導入前の面接や契約時に家族の困っている事、不安や要望等伺い、安心してサービスを利用していただけように信頼関係づくりに努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族と相談して今必要な支援を見極める。福祉用具のレンタルや歯科受診、買い物支援等行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	毎日の食事やおやつは職員と入居者が同じ献立同じテーブルで過ごしている。入居者一人ひとりの経験を重視して洗濯や食器の片付け		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族対応による通院、外出、外泊などの支援を行ったり、ご家族の面会も時間を限らずに行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や、親戚、知人などの、面会があり、居室や、談話室で楽しまれ、これまでの関係性が、継続できるよう、支援している。	家族了承のもと、利用者の友人や知人の来訪を歓迎しており、談話室を利用してゆっくりと話をしてもらえるようにしている。また、なじみの美容院に行ったり、お墓参りなど、これまでの関係性が継続できるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが、孤独せず、利用者同士、関わり合い、支え合えるように支援している。		

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院時や、他施設に入所する時は、情報提供を行う。契約終了後も病院や、施設に伺ったり、ご家族の方も、時々立ち寄ってくださり、近況状況など、お話し下さる。また、お届けものなどあり		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	買い物や入浴時など、また夜間帯に、一人ひとりと向き合い、話し合う機会となっており、聞き取った内容は、個人記録に記入して職員間で共有している。	日常的に職員から声掛けするようにしており、聞き取った言葉は記録に残して共有し、ケアに繋げている。なかなか話をしない利用者には、職員がキッチンにいる時にカウンター席に座ってもらって、作業をしながら話しかけることもある。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に居宅のケアマネジャーや、病院の相談員より、情報提供をいただいたり、本人や家族から、生活歴などの話を伺い、アセスメント表を参考にしながら、情報の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりのできる事、支援すればできる事を判断して、持っている力を引き出せるように職員会議で支援の方法を検討したり、現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画は本人の状況を確認の上、ご家族の意見も面会時に伺い、管理者、職員と相談して作成している。状況に変化があった場合は随時見直しを行っている。	日々のケアの記録や職員からの情報、面会時に聞いた家族の要望などをもとに、ケアマネジャーが介護計画を作成し、口頭で職員に伝え共有している。モニタリングは毎月実施し、半年に一度見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践、心身の気が付いた事、本人が話した事などを個別記録に記入、変化があった事は申し送りノートを活用して、職員間で情報の共有を行い、介護計画に活かす。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族より来所時や、電話での相談があった時は、ニーズに対応できるように努める。例として買い物支援、受診の付き添い、送迎、買い物支援など。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	家族、近所、民生委員、市役所の職員や訪問ボランティア、消防署、一緒に買い物に行くコンビニ、ドライブや散歩で行く公園や神社、地域の祭りなどの多くの地域資源があり、活用している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族の協力も得て従来からのかかりつけ医の受診の支援をしている。家族に同行して、情報の共有を図っている。訪問診療もしている。毎月の受診予定を一覧表にしている。	ホームでは利用者の従来からのかかりつけ医の受診を支援している。基本的に受診は家族に依頼しているが、家族の同行が難しい場合や医師に利用者の様子を伝える方がよい場合は職員が同行している。また、必要な利用者には往診の依頼をしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	心身の変化を看護師に伝えて相談し、適切な受診が受けられるように支援をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時、退院時、情報提供を行い、医療機関と情報を共有している。また、入院中、職員が常に訪問し、病棟の看護師に状態を伺っている。退院を含め、今後の方向性ついて話し合っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約時に、看取りを行っていないことを含め重度化したときの状況を説明し、同意を得ている。	ホームでは「重度化した場合におけるケアの指針」を作成し、契約時に説明し同意を得ている。口からの食事が困難になった場合は、受診を薦め、医師から状況の説明をしてもらっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の体制は、マニュアルを備えつけている。職員は、救命講習に定期的に参加し、技術の習得に努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2の火災訓練の他、水害を予想した避難訓練も行った。近隣の方には挨拶は行っている。今後も地域の協力体制を築いていく。	今年度、ホームでは毛布を使用し、職員が非常階段から利用者を避難させる訓練をおこない、訓練後は職員間で課題を話し合った。昨年の台風では、ベランダからの浸水を経験した。災害時の避難については行政との話し合いもおこなっている。	想定外の災害が予想される昨今である。様々な災害に対するマニュアルの整備や訓練の方法、備蓄や防災用品などについても再度検討が望まれる。また、行政や近隣との更なる協力関係の強化に期待したい。

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりに尊重した言葉がけを常に心がけています。日常の対応で気になる場所があれば、職員同士、注意を促している。	ホームでは利用者の名前はさん付けを基本としている。また、個人情報については、職員に職場外での守秘義務も徹底している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の生活の中で、思いや希望を探るなどし、自分の意思で決定できるような場面を提供するように心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の流れはある程度決まっているが、その日の天気や、入居者の心身の状態に合わせて柔軟に対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	整髪や髭剃り等の整容は、自分で行えるように支援している。行事や外出などでは、その人らしいおしゃれができるように支援している。行きつけの美容室への支援も行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と一緒に献立を考えながら、買い物に行ったり、野菜の皮むき等の下ごしらえや、テーブル拭きや、食器拭きを一緒に行っている。時には外食にでるなど、食事を楽しめよう支援している。	ホームには調理専門の職員がおり、毎日3食手作りのものを提供している。買い物は週に3回ほど、利用者と共に出かけ、献立は買い物時に、食材を見ながら決めている。また、時には外食にも出かけている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の状態により食事形態を変えたり、とろみを付けたり、持ちやすいようお椀に入れ替えたりしている。食事量、水分量の記録がある。毎朝の味噌汁はなるべく何種類か野菜を入れ具だくさんしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアは計画にいれ、毎食後口腔ケアを促し、個々に合った介助を行っている。夜間は義歯を預かり洗浄している。本人の訴えなどにより訪問歯科も支援している。		

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄のパターンを把握してトイレ誘導を行っている。可能な限りトイレでの排泄に努めている。	日中はトイレでの排泄を基本としている。排泄の自立度や排泄パターンは一人ひとり異なるため、個々に合わせて、定時に誘導したり、仕草や様子を見て声かけをするなどしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一人ひとりの身体状況に合わせて運動や飲食物の工夫に努めている。看護師やかかりつけの医者に相談を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	主に午後を入浴時間としているが、入浴者希望に合わせて毎日でも入浴可能です。季節でゆず湯や菖蒲湯も行っている。	週3回の入浴を支援している。湯の温度などは利用者の希望に沿って対応している。また、当日の体調によって入浴ができない場合には、入浴剤を入れ足浴に切り替える場合もある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その時々状況により休息を促したり、安眠できるように、寝具、室温、環境に配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の目的、副作用、用法、用量については理解しておりホームで管理している。入居者全員の薬の説明書がファイルしており、確認できる。受診などで服薬が変わった時申し送りノートに記入する。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者個々に応じて軽作業などをお願いしている。(食器拭き、洗濯干しや洗濯物たたみ、名前書きなど)嗜好品を一緒に買い物に行く事もある。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	天気が良い日はなるべく散歩や庭で活動を楽しんだり、おやつを持って季節ごとの花見や地域の祭りや外食など行事として外出する機会をつくり支援している。	ホームでは年間計画を立てて、季節の花見や散歩など、外出の機会を作っている。遠出の外出が難しい利用者にも、庭でお茶を飲んだり、ベランダに出て日光浴をするなど、外気に触れる機会を作っている。	

【評価機関】

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人やご家族の希望と個々の管理能力に応じ自己管理、ホーム管理を行っている。その人にあつた対応を行い、買い物の支援も行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望により家族に電話ができるように支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間、光、温度、湿度、音、清潔に気を配り、居心地よく過ごせるように職員もなるべく同じテーブルで過ごすようにこころがけている。光や風が気になる入居者様には席替えを行っている。	利用者が一日の大半を過ごすリビングは、日当たりもよく明るい空間である。室内も清掃が行き届いており、気になる臭いもなく清潔である。利用者の手作りのカレンダーやぬり絵などが飾られていた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人ひとりが気に入った場所で過ごせるように場作りをしている。(畳、ソファー、マッサージ機で過ごす。)		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室はこれまでの生活を考慮して畳に布団の方ベットのがある。布団は自宅で使い慣れたものを持参していただいている。使い慣れた時計や置物や家族の写真を飾る方もいる。	各居室とも整理整頓がされており、清潔である。家具は利用者の身体状況を考慮して配置されており、安全面にも配慮している。家族の写真や愛着のある物品を持ってきて、利用者が安心して過ごせるようにしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの能力を活用して安全でできるだけ自立した生活が送れるように工夫をしている。		

【評価機関】